

2025 年 5 月 6 日

【SUPER GT 第 2 戦 / 富士スピードウェイ レポート】

予選 27 位から驚異の 26 台抜きで UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (片山義章選手／ロベルト・メリ・ムンタン選手)が歓喜の初優勝



2025 年 SUPER GT の第 2 戦は恒例のゴールデンウィーク富士大会。搬入日の 5 月 2 日(金)はテントも飛んでしまうほどの強い風雨に見舞われたが、予選日の 5 月 3 日(土・祝)、決勝日の 4 日(日・祝)は見事な晴天が広がり、2 日間合わせて 8 万人を超える SUPER GT ファンがサーキットに詰めかけた。

予選日は、GT500 クラスでヨコハマタイヤを履く「WedsSport ADVAN GR Supra (国本雄資選手／阪口晴南選手／小高一斗選手)」が躍進。公式練習で国本選手がトップタイムをマークすると、勢いそのままに迎えた Q1 でも 2 番手に 0.3 秒差をつけてトップ通過を果たす。バトンを受け取った阪口選手も速さを見せたが、ほんのわずかにライバル勢が上回り悔しい 2 位。それでも優勝に手が届く 2 番グリッドを獲得した。「リアライズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」は公式練習で 12 番手。予選 Q1 は名取選手がステアリングを握り、午前中のベストタイムを更新したものの、14 台が 1 秒以内にひしめく僅差の戦いの中で 14 番手という結果になった。



GT300 クラスは今シーズンから新規参戦する「CARGUY FERRARI 296 GT3(ザック・オサリバン選手／小林利徕斗選手)」が公式練習で 2 位、「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI(片山義章選手／ロベルト・メリ・ムンタン選手)」が 3 位に。UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI は予選で車両トラブルに見舞われ Q1 突破がかなわず 27 番手となったが、CARGUY FERRARI 296 GT3 は小林選手が 3 番手タイムで Q2 進出を決め、オサリバン選手も 3 番手タイムで 2 列目グリッドを獲得した。



決勝日はさらに日差しが強まり、スタート時点で気温は 28 度、路面温度は 43 度を超えるまでに上昇した。午後 2 時 18 分に 3 時間の戦いがスタート。序盤から驚異の追い上げを見せたのは GT300 クラス 27 番グリッドの UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI だった。スタートドライバーのメリ・ムンタン選手はオープニングラップで 7 台抜きを披露すると、最初の 10 周でクラス 9 番手まで浮上。1 時間が経過するあたりではクラス 3 番手までさらにポジションを上げていた。ここで 1 度目のピットインを行い、片山選手に交代。全車が 1 度目の作業を終えたところで 7 番手となるが、片山選手もコース上でバトルを披露しポジションを上げながら周回。残り時間が 1 時間を切ったところで 2 度目のピット作業を行い、ラストスティントをメリ・ムンタン選手に託す。暫定 6 番手でコースに復帰するが、各車がピット作業に向かうことで徐々にポジションアップ。残り 30 分で 3 番手まで浮上した。更に、序盤にアクシデントに見舞われたことが原因で終盤にガソリンが足りなくなった車両がピットへ向かい、残り時間 10 分で UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI は 2 番手に。トップとの差は約 10 秒。ここから再びメリ・ムンタン選手の追い上げが始まった。1 周で 1～2 秒近く差を詰めていき、ファイナルラップではその差が 2 秒となる。するとこのプレッシャーが相手の流れを狂わせたか、トップの車両に突然トラブルが発生しスローダウン。その横を駆け抜けていった UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI がトップでチェッカーを受け、優勝を飾った。1 台を挟んで 3 番手でチェッカーを受けたのは CARGUY FERRARI 296 GT3 だったが、ピット作業違反による 5 秒のタイム加算ペナルティを受け正式結果は 4 位となった。

フロントロースタートの WedsSport ADVAN GR Supra に期待がかかった GT500 クラスだが、決勝では苦戦を強いられた。国本選手が走った第 1 スティントの序盤はまずまずのペースでライバル勢と戦っていたが、阪口選手に交代してからの第 2 スティントでは接触アクシデントで緊急ピットインを行ったこともあり、なかなかポジションを上げられず。最終スティントは今大会第 3 ドライバーに登録された小高選手が GT500 レースデビューを飾り、約 45 分を無事に走り切って 14 位完走を果たした。リアライズコーポレーション ADVAN Z は松田選手から名取選手へつなぎ 3 時間を力走。15 位でフィニッシュした。

■ 片山義章選手 (UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

予選では車両トラブルがあつていい結果を得られなかったのですが、ポテンシャルはあると思っていたので絶対に上に行けると考えていました。実際、ロベルトがものすごい活躍を見せてくれて、僕自身も非常に気合が入りましたね。2 人そろって、過酷なレースでポテンシャルを出し切れた結果の優勝なので、本当にうれしいです。

■ ロベルト・メリ・ムンタン選手 (UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

優勝できたのは奇跡のようです。何台もオーバーテイクすることができました。最後の最後は相手の優勝のチャンスを奪うことになったわけで、彼らにとっては非常に残念だったと思いますが、追いかける立場であれば誰もがチャンスと捉えるものでしょう。僕たちとしてはこのチャンスを絶対に逃したくなかったですし、優勝できて本当にうれしく思っています。

■ 国本雄資選手(WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 14 位】

今回はウォームアップが苦しいかもしれないというタイヤでのスタートでしたが、路面温度も高かったことで問題なくスタートを切ることができました。序盤はいいペースで走れたものの、最後にペースが落ちてしまったのは今後の課題だと思っています。レース全体でみると、今回は新しいタイヤを選んで走りましたが、そのパフォーマンスも見ることができましたし、次につながるレースにはなったと思います。

■ 阪口晴南選手(WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 14 位】

僕のステントではアウトラップでライバル勢に少し劣ってしまって何台かの先行を許してしまいました。レース中は他のクルマと接触してしまって、クルマにダメージを負ってしまったのでそこはとても残念です。今年は新しいタイヤで走らせてもらい、予選の速さは戻ってきましたが、決勝ではまた難しい課題が出てきているので、またもう一ひねりして、今後に活かしたいですね。

■ 小高一斗選手(WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 14 位】

当初は乗る予定ではなかったのですが、機会を作ってもらうことができました。今シーズンはまだ長いレースが残っているので、その時に向けた練習ができたかなと思っています。タイム的にも問題なく走れたので自信が付きまして、これからクルマやタイヤの開発の部分にも加わっていけるかなと思えました。決勝レースでの経験を積むことができて良かったです。

■ 中崎敬介[横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]

前戦の岡山とは違い、高速コーナー等がありタイヤへの負荷の大きい富士ではスピードと耐久性の両立がより必要となります。オフシーズンテスト等を通しタイヤの試作を重ね試行錯誤をしてきた中で、今回の予選の好結果に繋がったことはポジティブに捉えています。一方決勝では、各ステント後半でのペースダウンが何よりの課題となりました。3 時間レースという長丁場でもスピードとペースを保つことの両立ができるタイヤ開発に引き続き取り組んでいきます。

GT300 では 2 台のフェラーリが素晴らしい走りを見せてくれました。タイヤとしても、トラブルなくこれだけの速いペースで走り切れたことは大きな進歩であり、今回選択した構造・コンパウンドが、決勝のレース環境によくマッチしていた結果だと考えています。